

令和 4年 2月

永瀬大輔 学位論文審査要旨

主 査 植 木 賢
副主査 黒 崎 雅 道
同 井 上 幸 次

主論文

Intraoperative measurement of crystalline lens diameter in living humans

(ヒト生体水晶体直径の術中計測)

(著者：永瀬大輔、飽浦淳介、大松寛、井上幸次)

令和4年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. High interleukin-8 level in aqueous humor is associated with poor prognosis in eyes with open angle glaucoma and neovascular glaucoma

(房水中の高いインターロイキン8レベルは、開放隅角緑内障及び血管新生緑内障の予後不良と関連している)

(著者：蝶野郁世、宮崎大、三宅瞳、小松直樹、江原二三枝、永瀬大輔、川本由紀美、清水由美子、出田隆一、井上幸次)

平成30年 SCIENTIFIC REPORTS 8巻 14533

審査結果の要旨

本研究は独自に開発した計測デバイスを用いて、実際の白内障手術時にヒト水晶体の赤道部径を計測し、その実測値と術前に測定した各種水晶体関連パラメーターとの相関関係について検討したものである。その結果、水晶体は加齢により主に垂直方向に増大し、赤道部方向である水平方向においては加齢による変化が乏しい可能性があること、また水晶体赤道部径はこれまでに報告されてきた値よりも実際は長い可能性があることが示唆された。本論文の内容は、これまでに精密な測定の報告がなされてこなかったヒト水晶体の赤道部径についての新知見を得ることで、明らかに学術水準を高めたものと認める。